

令和5年度
教育委員会の事務に関する点検・評価報告書
《令和4年度実施事業》



天草市教育委員会

はじめに

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第1項の規定により、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成することとなっています。

本報告書は、効果的な教育行政を推進するとともに、市民への説明責任を果たしていくため、令和4年度の本市教育委員会の所管事務について、点検及び評価を行い、学識経験者の意見を付して報告するものです。

<参 考>

◎地方教育行政の組織及び運営に関する法律（平成27年4月1日改正）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

目 次

I	点検及び評価に関する要領	1 P
1	趣 旨	
2	点検評価の対象	
3	点検評価の方法	
4	点検評価員の委嘱	
5	点検評価の手順	
6	点検評価調書の作成	
II	教育委員会の活動状況について	4 P
1	教育委員会会議	
2	教育委員の主な活動	
3	附属機関の状況	
4	教育委員会の情報発信	
III	外部点検評価	7 P
1	点検評価員	
2	会議	
3	点検評価員の主な意見	
IV	点検評価調書	
1	令和4年度点検評価事業一覧	13 P
2	点検評価調書	15 P

I 点検及び評価に関する要領

1 趣 旨

この報告書は、令和4年度における天草市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（以下「地教行法」という。）第26条第1項の規定に基づき、点検及び評価を行う。

2 点検評価の対象

点検評価の対象は、地教行法第21条に「教育委員会の職務権限」として規定されている事務のうち、「第2次天草市総合計画」や「第2次天草市教育振興基本計画」を推進するため取り組んだ主な事業を対象として実施する。

3 点検評価の方法

(1) 内部評価

対象とした施策ごとの主な事業について、その目的、令和4年度の実績内容等を示し、その結果を踏まえて、所管課としての評価及び課題、今後の方向性を記載する。

(2) 外部評価

点検・評価の客観性を確保するため、教育に関し学識経験を有する方々の意見を聴取する機会を設ける。

4 点検評価員の委嘱

(1) 点検評価員の法的根拠 地教行法第26条第2項

(2) 点検評価員の数 2人

(3) 資格 教育に関し学識経験を有する方で、性別・年齢は問わない。

(4) 任期 2年（再任を妨げない）

(5) 報酬等 報酬・費用弁償については、天草市非常勤職員の報酬及び費用弁償に関する条例の規定による。

5 点検評価の手順

点検評価は、次の順により行う。

(1) 内部評価

事務局各課がその所管する事務事業等について、評価を行う。

(2) 外部評価

上記(1)の内部評価の結果をもとに、点検評価員の意見を聴取する。

(3) 最終評価

上記(1)及び(2)の外部評価の結果を踏まえ、教育委員会が最終的な評価を行う。

(4) 議会への報告

教育委員会は、「点検及び評価報告書」を市議会に提出する。

(5) 公表

教育委員会は、「点検及び評価報告書」を教育委員会ホームページに掲載し市民に公表する。

6 点検評価調書の作成

(1) 「事業名」欄

令和4年度に実施した事務事業名を記載する。

(2) 「第2次総合計画施策体系区分」欄

事務事業の上位施策となる第2次総合計画における施策を記載する。

(3) 「政策（基本方針）」欄及び「施策計画」欄

「第2次天草市教育振興基本計画」の「政策（基本方針）及び施策計画」を記載する。

(4) 「目的・内容」欄

実施した事務事業の目的及び内容を記載する。

(5) 「取組実績」欄

令和4年度における取組実績について記載する。

(6) その他

令和4年度の「決算額」、評価の「指標名」及びその指標の「目標値」・「実績値」を記載する。

(7) 「評価」欄

ア 評価項目

評価は、次の項目について行う。

(ア)「成果・自己評価」欄

令和4年度に実施した事業について、成果及び自己評価を行う。

(イ)「課題」欄

令和4年度に実施した事業における課題を記載する。

(ウ)「方向性」欄

成果・自己評価及び課題に基づき、今後の方向性を具体的に記載する。

イ 評点

評価は、次の評点により行う。

(ア)「上位の施策（目標）への貢献」欄

4：大いに貢献できた 3：貢献できた

2：少し貢献できなかった 1：ほとんど貢献できなかった

(イ)「市関与の必要性」欄

4：関与の必要性が高い 3：関与の必要性がやや高い

2：関与の必要性はやや低い 1：関与の必要性は低い

(ウ)「達成状況」欄

4：達成できた 3：だいたい達成できた

2：あまり達成できなかった 1：達成できなかった

(8) 総合評価（方向性）欄

上記(7)の評価を踏まえ、総合的な評価を行い、今後の取組みの方向性について、次の区分により記載する。

ア 廃止：令和4年度で事務事業を廃止する。

イ 終了：設定した終期の到来又は事業目的の達成により事務事業を終了する。

ウ 縮小：事業内容、事業量等を縮小して事務事業を継続する。

エ 見直して継続：他の事務事業との統合や内容を見直して継続する、又は新たに終期を設定して継続する。

オ 継続：現行の内容で事務事業を継続する。

カ 拡充：事業内容、事業量等を現行よりも拡充して事務事業を継続する。

II 教育委員会の活動状況

1 教育委員選任状況

《委員名簿》

令和5年3月31日現在

役職名	氏名	任期
教育長	石井 二三男	R3. 7. 1～R6. 6. 30
委員（教育長職務代理者）	木下 えり子	R4. 7. 1～R8. 6. 30
委員	行合 八恵子	R2. 7. 1～R6. 6. 30
委員	吉森 啓司	R1. 7. 1～R5. 6. 30
委員	池崎 教授	R3. 7. 1～R7. 6. 30
委員	平道 千春	R4. 7. 1～R6. 6. 30 （前任者の残任期間）

※教育長の任期は3年 ※委員の任期は4年

2 教育委員会会議

会議は原則公開で行い、毎月1回の定例会のほか、必要に応じて臨時会を開催し、教育行政の実施に関する事項等の審議を行います。令和4年度においては、定例会を12回、臨時会を2回開催し、議案48件の審議、協議報告26件について審議しました。

市民への積極的な情報提供を行うため、会議を傍聴できることや、会議の日時、場所、教育委員会定例会及び臨時会の会議録のホームページへの掲載などを引き続き行います。

3 教育委員の主な活動状況

(1) 学校訪問

市内の幼稚園や小・中学校を訪問し、教育課程、学習指導、生徒指導その他専門的事項について指導・助言等を行うとともに、その学校の取組みや抱えている課題の把

握に努めました。これに、教育委員も参加し、校長との意見交換や授業・施設の視察等を行いました。

《学校訪問の状況》

区 分	対 象	期 日	出席状況
幼稚園訪問	3園	令和5年1月16日～令和5年2月1日	延べ 6人
小学校訪問	17校	令和4年6月29日～令和5年1月31日	延べ 23人
中学校訪問	13校	令和4年7月13日～令和5年1月31日	延べ 22人

(2) 研修会への参加

教育委員会では、教育委員会関係団体の行事や研修会に参加し、情報交換や研さんに努めています。

(3) その他の主な会議や行事

会議・行事名等	期 日	出席状況
入学式・入園式	令和4年4月	延べ11人
二十歳のつどい(10地区)	令和4年8月、令和5年1月	延べ14人
研究発表会(小中学校研究指定校3回)	令和4年11月～令和5年1月	延べ14人
社会を明るくする運動表彰式	令和4年7月2日	1人
青少年健全育成・教育推進フォーラム	令和5年2月4日	1人
退職者感謝状贈呈式	令和5年2月28日	4人
卒業式・卒園式	令和5年3月	延べ13人

3 附属機関の状況

政策等を立案するに当たり、専門的な判断を要する事案等について、各関係者の意見を広く聴取し、様々な角度から議論を行うため、附属機関を設置しています。審議会等の開催状況は次のとおりです。

審議会等の名称	開催回数	主な審議案件
天草市奨学生選考委員会	1回	奨学生の選考
天草市就学指導委員会	2回	心身に障害のある児童及び生徒に対する就学指導
天草市いじめ防止対策審議会	1回	本市のいじめ問題に係る現状報告、いじめ事案に関する審議
天草市いじめ問題対策連絡協議会	1回	本市のいじめ問題に係る現状報告 いじめ問題に係る情報交換・意見交換
天草市立学校給食センター運営委員会（各センターに設置）	各2回	給食費の決定、給食日数、納入業者の承認、管理運営
天草市学校給食食物アレルギー対応委員会	2回	基本方針、食物アレルギーの対応経過報告
天草市社会教育委員会議	1回	事業報告、事業計画、生涯学習推進指針
天草市立図書館協議会	1回	事業報告、事業計画、施設運営方針（案）の提案、子ども読書活動推進指針の実績報告

4 教育委員会の情報発信

教育に関する制度や手続等の周知を図るとともに、教育委員会の取組みに関心を持っていただくため、教育の現状及び課題、施策等についてホームページにおいて情報の提供をしています。

Ⅲ 外部点検評価

1 点検評価員 (50音順・敬称略)

氏 名	所 属 等
蓑田 えり	元 天草市教育委員
望月 信幸	熊本県立大学総合管理学部教授

2 会 議

- ・ 第1回点検評価員会議 令和5年7月7日 (金) 天草市役所 庁議室
- ・ 第2回点検評価員会議 令和5年8月17日 (木) 天草市役所 庁議室

3 点検評価員の主な意見

教育総務課所管事業

《離島高校生修学費支援事業》

継続を評価する。利用する子どもあつての事業で目標値の設定は難しいが、新規対象者など制度の周知徹底をお願いしたい。

《姉妹都市教育交流事業》

新型コロナウイルス感染症対策の影響で事業継続が困難な中、令和5年度の直接交流に繋ぐことができた。

継続を評価し、今後にも期待している。

《小学校施設大規模改造事業》《中学校施設大規模改造事業》

令和4年度も複数の事業に計画的に取り組んでいただいた。なかでも本渡東中学校のバリアフリー化が竣工出来てよかった。実績を評価する。

学校施設は子どもたちの学び舎であるとともに、災害時には避難所としても活用される場所。本渡北小学校については、仮設校舎を賃貸借しているとのことだが、早めにどういう風に建て替えをしていくのか検討した方が、長い目で見ても、コスト面を考えてもよいのではないか。

学校教育課所管事業

《学習指導補助事業》

チーム・ティーチングに関しては新たに教育活動支援員が配置され、大変良かった。

令和4年度は校内の教職員で、外国にルーツを持つ子どもたちへの指導を行ったとの報告を受けたが、対象者にこうした天草市の取り組みを知ってもらい、相談窓口としても活用し

てもらえるよう、日本語指導員への委託を先生や保護者に促すべきではないか。

《学校読書活動支援事業》

令和4年11月、熊本日日新聞にて「熊本市の学校図書購入予算、政令都市で最下位」と報じられた。これは天草市の事ではないが、学校図書への注目の現れと受け止め、学校図書館教育が一層充実していくことを期待している。学校図書に関する部分と生涯学習から行っている図書館事業、この二つの内容に開きがあると感じている。

図書館は、週に一度、保護者に連れて行ってもらえるかどうかの場所だが、学校の図書室は毎日行ける場所である。

学校司書配置数が令和3年度に比べ1名減少した。学校司書の業務の負荷も平準化を考えないといけないが、規模とは比例しない。どれぐらいの貸し出しがあるのか等、業務量を見ながら配置について検討していただきたい。

《外国語指導助手招致事業》

令和4年度はALT11名を招致することができ、大変良かった。

英会話教室の実施については、隣接する学校も参加できるようにするなど、工夫を求める。

令和5年度以降に予定されている「崎津ボランティアガイドに係る英会話指導及び協働ガイド」の取り組みにも期待している。

《中学校英語検定チャレンジ事業》

英検受験率について、50%ぐらいで止まってしまうとか、伸び悩むようなら次の対策を考える必要が出てくると思われる。

受験についてある程度安定してくると、それが成果に結びつけられるように、結果としてどうなのかというところをみながら、場合によってはそのサポートが必要になってくるのではないか。そのことから合格率も追跡してもらいたい。

《総合的な学習活動支援事業》

体験学習など校外活動が多く、この取り組みは子どもたちも楽しみにしているのではないかと思う。ICTを活用した、熊本日日新聞社との共同調査学習を行うなど開かれた内容も評価する。

《心の教室相談事業》

実績件数の多寡にかかわらず必要な事業であり、限られた人員で子どもたちの相談に対応していることを評価する。新型コロナウイルス感染症の感染者もまた増えてきており、今後違った悩み、課題が出てくる可能性が高いので、柔軟に対応できるようにしていただきたい。

情報交換を含めた研修会等をさらに充実することを期待する。

《適応指導教室設置事業》

適応指導教室に來れない状態の人も潜在的に多数いると思われる。そういった生徒の情報もできるだけ拾い上げて、声掛けをしてもらい、少しでも來れるように積極的に進めていただきたい。

新聞や世間的にもフリースクールなど取り上げられている。今の不登校が100名ほどいて、カワセミの定員は20名ほど。やり方など方向転換の時期なのではないか。

《天草市特別支援教育総合推進事業》

相談対象に学校関係者が含まれていることを評価し、今後の充実を期待している。

新型コロナウイルス感染症の感染自体は、ここ3年ずっと続いている。この状況は、昨年度時点でも想定していたので、どういう形で実施するのか。という何かしら目標達成の案が欲しかった。

《教育相談事業》

カウンセラーの確保について、熊本市内等から企業の派遣で呼んでくるという考え方である一方で、天草市内でその人手を確保しようとするのであれば、探すだけでなく、何かしら育成するということを今後考えていく必要があるのではないか。

専門的な助言が受けられ、園や学校等からの評価が高いのもうなずける。相談員の登用について課題はあるが、充実を図るため継続して取り組んでいることを評価する。

《中学校英語検定チャレンジ事業》

事業目的にある「受験料の補助」だけにとどまらず、受験への促しから合格にむけての指導まで、対応いただいていることを評価する。方向性も「拡充」となっており、今後の取り組みを期待する。

《市指定教育研究推進校補助金》

先生方の資質の向上に大きく寄与している事業であることは間違いない。指定校先の校長先生をはじめ、合同研究を行う先生方に感謝し、継続の方向であることを評価する。

校種、学年、教科の偏りが見られる点や研究指定校が固定化される傾向があると思うが、できるだけその機会を均等に与えるという努力は必要である。また、研究のねらい、その成果を普及させるためのポイントをおさえ、発表会に参加させたい人物、ターゲットをどう設定し、どう取り込んでいくのか、何かしら実施上の努力、工夫が必要である。

《コミュニティ・スクールの推進に向けた取り組み》

計画通りに進めていただいております、児童生徒が参画するなど、期待以上の取り組みも見られ、評価する。

学校、保護者、地域が協力するが、子どもたちにお膳立てし、全て整った状態で進めるよりは、もう少し準備から携わらせる等、子どもたちの自主性を尊重するような仕組み、取り

組みもしていただきたい。

《小中学校 I C T 整備事業》

I C Tに関して、機器はどんどん新しくなっていく。ついていけない先生方に対して、どうやってサポートしていくか、うまく現場の状況を見ながら柔軟に対応をしていただきたい。

生涯学習課所管事業

《二十歳のつどい開催事業》

大人から見て意図しているもの、当事者は何を求めているのか擦り合わせを継続的にしながら、この機会自体は残して行って、より充実したものにしていただきたい。

《移動図書館事業》

移動図書館としての機能以外を持たせるなど、複合的な視点も買い替えの時期に考えてもいいかもしれない。利用者にどんなニーズがあるのかを把握し、今後、市で必要と考えていることがあれば、それと抱き合わせるようにすると、より利便性が高まると思うので、検討してみてもいいのではないか。

《読書活動推進事業》

移動図書館を含めて、色々とニーズを聞きながら取り込めることは取り込んでやっていただきたい。

《生涯学習推進事業》

場を提供するだけでなく、教育を受けようと思ってもらえるような工夫が必要であり、引き続き積極的にお願いしたい。

《青少年健全育成事業》

2団体については予算がなく断ったということだが、せっかく応募していただいているので何らかの形で拾ってあげたい。今後も継続的に増える見込みがあるのであれば、予算を増やすことも必要ではないか。

先着順ではなく、前期・後期の2回で申し込みを取って、ケースによって金額を柔軟に設定する方法もあると思うので、検討をお願いしたい。

申請団体数を指標でいいのか。これは、たくさん応募があればいいという上げ方だと思うが、申請団体数というのは、どれぐらい認知されたか。という指標。ある程度認知されてきたのであれば、その指標としての役割は終わったということになる。今年度以降の指標については、場合によっては検討が必要と思われる。

学校給食課所管事業

《地産地消の推進事業》

地産地消の推進というのは給食にこだわらなくてもいいのではないか。

地産地消率自体を、その指標に入れておくことはよいが、その指標プラスもう一つ何かあってもいいのではないか。例えば、地産地消を推進する、地産地消を促していく講座をすることなど、指標に入れてみてもいいのではないか。

文科省が掲げる「学校給食における地場産物等の活用に係る目標」が変更されている。

現実に即した目標（金額ベース）に見直されることにより、現場の負担感が減ることを願っている。学校給食調理業務などの民間委託の推進等、今後も変化が予測されるが、子どもたちに安心・安全でおいしい給食が提供されるよう期待する。

《学校給食施設整備事業》

前年度に続き、令和4年度も目標値を上回る実績値を出せた。事業に係る職員の努力を評価する。今後も安全に整備事業が継続していくよう期待する。

《本渡学校給食センター建設事業》

予定通りに供用が開始され、ここに至るまでの努力をありがたく思う。

【各課共通】

今回は特に修正の方向でいけば、学校給食課の指標を増やす、指標を持つ、というようなところが大きなところかと思うが、昨年、一昨年の新型コロナウイルス感染症対策の状況から、少しずつ、また元に戻ってきているという中で、実績も変化していると思うし、それに対応して、事業の方も柔軟に対応していると思う。学校教育であれば児童生徒とか、生涯学習であれば一般市民も含めて、色んな受け手側のニーズを踏まえつつも、それだけを汲み取ってしまうのではなく、提供側もどういう風に対応していくか、両輪で事業を進めていきたい。

4 総合評価

◎全体的意見・要望等

望月点検評価員

新型コロナウイルス感染症の（まん延の）末、人々の流れも、今まで通りに戻ってきているかと思う。ただ、新型コロナウイルス感染症の流行前の状態に戻ったので、実施する内容も依然の状態に戻しました、では全く変化がない。新型コロナウイルス感染症の流行があった、これまでどおりにできないから色々で見直しをする。あるいは、考え直す時間があったと思うので、それも踏まえながら、今後は新しい、もう一歩先に進んだ、事業の展開という

ものを期待したい。

受け手側が、充実したサポートを受けるためには、提供する側がしっかりと知識と技術を持っていなければならない。人手のこともあるが、その提供する側も、育成・教育といったところも、これから先、同時に考えていくことが大事になってくる。また、オンラインというツールも、もし有効な手段ということであれば、それもうまく併用すればそれだけ提供する側の幅が広くなり、いろんな人に対するサポート体制が手厚くなるということなので、うまく組み合わせて、より実のある事業の実現をお願いしたい。

蓑田点検評価員

令和4年度も新型コロナウイルス感染症の影響を受けながら、ご心労の多い一年だったかと思う。

この会議が行われている最中にLGBT理解増進法が施行されるに至った。この法律によって今後、教育現場にどのような影響があるのかを見守りたい。

義務教育期の学校には、まず子どもたちに教育を施さねばならないと考える。子どもたちが、その時期に学んでおくべき教育を受けられるように、先生方をサポートし続けていただく教育委員会各位に感謝申し上げます。その教育を受け取った子どもたちの心に、教職への憧れが湧いてくることを願っている。

V 今後の方向性

- (1) 点検評価員の意見を真摯に受け止め、事業がさらに充実するよう、十分検討・協議を行い、今後の教育行政の運営に反映させる。
- (2) 点検評価の結果に基づき、事務事業の今後の取組みの方向性等の見直しを行い、次年度の予算に反映させる。

令和4年度 点検評価事業一覧

政 策 (基本方針)	施策計画	整理 番号	事務事業名	所管課	
学校教育の充実	学力の向上	1	学習指導補助事業	学校教育課	
		2	学校読書活動支援事業		
		3	外国語指導助手招致事業		
		4	中学校英語検定チャレンジ事業		
		5	総合的な学習活動支援事業		
		6	離島高校生修学費支援事業	教育総務課	
		7	姉妹都市教育交流事業		
	心の教育の充実	8	心の教室相談事業	学校教育課	
		9	適応指導教室設置事業		
	特別支援教育の充実	10	天草市特別支援教育総合推進事業		
		11	教育相談事業		
	教職員の資質の向上	12	市指定教育研究推進校補助金		
	学校・家庭・地域との連携	13	コミュニティ・スクールの推進に向けた取組み		
	教育を支える 環境づくりの推進	14	小学校施設大規模改造事業		教育総務課
		15	中学校施設大規模改造事業		

令和4年度 点検評価事業一覧

政 策 (基本方針)	施策計画	整理 番号	事務事業名	所管課
学校教育の充実	教育を支える 環境づくりの推進	16	小中学校 I C T 整備事業	学校教育課
	学校給食における 食の安全と食文化の推進	17	地産地消の推進	学校給食課
		18	学校給食施設整備事業	
		19	本渡学校給食センター建設事業	
生涯学習の充実	生涯学習の推進	20	二十歳のつどい開催事業	生涯学習課
		21	移動図書館事業	
		22	読書活動推進事業	
		23	生涯学習推進事業	
		24	青少年健全育成事業	
		25	地域と学校の連携・体制構築事業	

点検評価調書		整理番号	1					
事業名	学習指導補助事業			担当課係名	学校教育課 教務係			
第2次総合計画 施策体系区分	経営方針	未来を拓く人を育む まちづくり	政策	学校教育の充実	施策計画 次世代の担い手を育む			
教育振興 基本計画	政策 (基本方針)	学校教育の充実	施策 計画	学力の向上				
事業目的・内容	<p>●目的 小学校及び中学校においてティーム・ティーチング等きめ細やかな指導を行うことにより、児童生徒の発達段階に応じた学校教育の実現を図る。また、日本語指導が必要な外国にルーツを持つ児童生徒に対して、日本語指導員を派遣し、安心した学校生活を送ることができる環境を整備する。</p> <p>●内容 1. 学習指導補助教員及び教育活動支援員の配置 各学校からの要望に基づき現地調査を行い、小・中学校の教員免許状または養護教諭の免許状を持つ者（学習指導補助教員）及び主に生活支援を行う当該免許を持たない者（教育活動支援員）を配置した。 配置基準（1）小学校1学年、2学年に31人以上の学級で特に配慮を要する学級 （2）発達障害等特に配慮を要する学級 2. 日本語指導員派遣委託 日本語指導員を派遣できる団体と委託契約を締結し、日本語能力の指導等を行う。</p>							
取組実績	<p>1. 学習指導補助教員 市内の小・中学校に、教員免許を持つ会計年度任用職員を配置した。 ・各学校からの要望数 70人（小学校 51人、中学校 19人） ・現地調査を行った学校 25校（小学校 17校、中学校 8校） ・学習指導補助教員配置数 33人（小学校 26人、中学校 7人） ・教育活動支援員配置数 9人（小学校 9人） ・配置基準別配置数（1）7人（2）35人（3）0人 計42人 2. 日本語指導員派遣委託 該当者なし</p>							
決算額		指標：成果、活動の対象となるもの			評価			
令和4年度(千円)		指標名	単位	令和4年度	上位の施策 (目標)への 貢献	市関与の 必要性	達成状況	
97,879 (一般 97,879)		学習指導補助教員及び教育 活動支援員の配置数 (年度末時点)	人	目標値				40
				実績値	42	目標値		実績値
成果 自己評価	<p>学習指導補助教員については、担任教諭とのティーム・ティーチングにより細やかな学習指導を行い、教育活動支援員については、主に特別支援学級での生活支援を行った。この結果、学習態度や集団生活等の基礎的事項の定着・向上が図られた。 日本語指導員派遣委託については、対象者がなく事業実施はなかった。</p>					総合評価 (方向性)		
課題	<p>学習指導補助教員の配置のほか、教員免許を要しない「教育活動支援員」の職を新たに設置した。目的の異なる2つの職により学級運営を支援することになり、これまで以上に学校における困り感を正確に把握し、適正な配置を行う必要がある。 日本語指導員派遣委託については、個々に必要な支援や指導内容が異なるため、当該支援等の要否及び委託先の見極めが非常に難しい。</p>					継続		
方向性	<p>支援を必要とする児童生徒は年々多くなっている傾向にあり、学校からの要望も非常に多い。身体的又は心の支援を必要とする児童生徒のために、教育活動支援員を上手く配置することで支援員の総数を確保し、1つでも多くの要望に応えられるよう、継続して取り組む。</p>							

点検評価調書		整理番号	2					
事業名	学校読書活動支援事業			担当課係名	学校教育課 教務係			
第2次総合計画 施策体系区分	経営方針	未来を拓く人を育む まちづくり	政策	学校教育の充実	施策計画	次世代の担い手を育む		
教育振興 基本計画	政策 (基本方針)	学校教育の充実	施策 計画	学力の向上				
事業目的・内容	<p>●目的 学校教育において、児童生徒の豊かな感性を磨き、表現力を高め想像力を豊かにし、情報活用能力を向上させる等効果的な読書活動や多様な学習活動を推進する。</p> <p>●内容 図書館業務の専門的知識を有する学校司書を巡回配置する。</p>							
取組実績	<p>図書館業務の専門的知識を有する学校司書を天草市内の小・中学校（30校）に、2校又は3校に1人の割合で巡回配置した。ただし、学校規模により、本渡南小、本渡北小、亀川小、本渡中については、1人を専属で配置した。</p> <p>・学校司書配置数 16人</p>							
決算額		指標：成果、活動の対象となるもの			評 価			
令和4年度(千円)		指標名	単位	令和4年度		上位の施策 (目標)への 貢献	市関与の 必要性	達成状況
38,649 (一般 38,649)		学校司書配置数	人	目標値	16			
				実績値	16			
		貸出冊数	冊	目標値	393,825	4	4	4
				実績値				
成 果 自己評価	学校司書を各学校に配置し、学校図書システム等を活用した効果的な読書活動や蔵書の整備、図書室の視覚的な環境整備を行うことで、学校図書館教育の充実が図られ、子ども達の本への関心を高めることができた。						総合評価 (方向性)	
課 題	図書館業務は専門的知識を必要とすることから、学校等と連携を図り、人材確保に努めていく必要がある一方、学校図書システムを効果的に活用することにより、業務改善を進めている。今後は、業務の平準化を図ることで、複数校担当を含めた学校司書の適正配置を進めていく必要がある。						継続	
方 向 性	学校教育において、効果的な読書活動や多様な学習活動を推進するために学校司書は必要である。学校における読書活動等のさらなる充実を図るため、今後も継続して取り組む。							

点検評価調書		整理番号	3				
事業名	外国語指導助手招致事業			担当課係名	学校教育課 教務係		
第2次総合計画 施策体系区分	経営方針	未来を拓く人を育む まちづくり	政策	学校教育の充実	施策計画 次世代の担い手を育む		
教育振興 基本計画	政策 (基本方針)	学校教育の充実	施策 計画	学力の向上			
事業目的・内容	<p>●目的 生きた外国語を市内小・中学生に学習させ、国際交流、異文化交流を推進するとともに、英語能力の基礎を養い、国際社会に対応できるコミュニケーション能力の育成を図る。</p> <p>●内容 ・外国語指導助手（ALT）を市内小・中学校に巡回方式で配置。 ・外国語科研究員会、外国語科研修により、外国語科の授業の充実を図る。 ・児童生徒対象の英会話教室の実施、崎津ボランティアガイドに係る英会話指導及び協働ガイドの実施（令和5年度以降）</p>						
取組実績	<p>○ALT（11人）を市内小・中学校に巡回方式で配置 ○本渡南小学校で英会話教室を試験的に実施、令和5年度以降本格実施予定（夏季冬季休業期間に地域ごとに実施する。） ○運動会や合唱コンクール等の学校行事への参加 ○牛深ハイヤ及び本渡ハイヤ等の地域行事への参加</p>						
決算額		指標：成果、活動の対象となるもの			評価		
令和4年度(千円)		指標名	単位	令和4年度	上位の施策 (目標)への 貢献	市関与の 必要性	達成状況
51,885 (その他 2,063,285円)		外国語の授業が楽しいと 感じる児童の割合	%	目標値			
				実績値	92.6		
		目標値		4	4	3	
		実績値					
成果 自己評価	<p>外国語科では、コミュニケーション能力の向上を図ることを目的としているが、ALTを活用することで指導者の意識の高まりと指導力の向上を見ることができた。 本渡南小で試行的に実施した英会話教室はALTが企画から参画し、参加した児童数は25人（ALT3人）であった。 児童生徒対象のアンケート結果では、前年度と比較すると、「楽しい」「好き」といった意欲面の項目において数値が上がり、「外国語の授業は分かりますか」といった理解面の項目においても改善が見られた。</p>					総合評価 (方向性)	
課題	<p>英語によるコミュニケーション能力の育成を図りつつ、グローバル人材の育成へと発展させていく必要がある。 また、英会話教室の分散開催や崎津ボランティアガイド（英語ver.）への取組みなど授業外活動を加速していく必要がある。</p>					継続	
方向性	<p>英語によるコミュニケーション能力の育成を図るため、ALTの授業での活用を継続しつつ、夏季冬季休業中における英会話教室の開催など授業外活動にも積極的に取り組む。</p>						

点検評価調書		整理番号	4					
事業名	中学校英語検定チャレンジ事業			担当課係名	学校教育課 指導係			
第2次総合計画 施策体系区分	経営方針	人が輝く活力あるまちづくり	政策	学校教育の充実	施策計画 次世代の担い手を育む			
教育振興 基本計画	政策 (基本方針)	学校教育の充実	施策 計画	学力の向上				
事業目的・内容	<p>●目的 中学生の英語力向上のため、英語検定を受験した中学3年生の保護者に対し、受験料の補助を行い、英語検定等の外部検定試験への積極的な挑戦を支援する。</p> <p>●内容 市内中学校に在籍し、英語検定を受験した中学3年生の保護者に対し、受験料の2/3（1/3県負担、1/3市負担）を補助する。</p>							
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・受験者数 315人（中学3年生 638人） ・2級 5人、準2級 41人、3級 201人、4級 59人、5級 9人 							
決算額		指標：成果、活動の対象となるもの			評 価			
令和4年度(千円)		指標名	単位	令和4年度		上位の施策 (目標)への 貢献	市関与の 必要性	達成状況
954 (県支出金 468,000円)		英検受験率	%	目標値	50			
				実績値	49			
				目標値		4	4	4
				実績値				
成 果 自己評価	中3英検受験率は、前年度48%、今年度49%であるが、令和5年度に支援方法を見直すことから目標値を上回るものと思われる。						総合評価 (方向性)	
課 題	中学1, 2年生の英検等受験に対する支援については、学校、保護者からも要望があっており、検討を進める必要がある。						拡充	
方 向 性	令和5年度からは従来の支援を見直し、対象者を中学生全員に拡大し、受験料についてはその全額（1年に付き1回に限る。）を補助することとし、幅広くチャレンジを促していく。							

点検評価調書		整理番号	5					
事業名	総合的な学習活動支援事業			担当課係名	学校教育課 教務係			
第2次総合計画 施策体系区分	経営方針	未来を拓く人を育む まちづくり	政策	学校教育の充実	施策計画 次世代の担い手を育む			
教育振興 基本計画	政策 (基本方針)	学校教育の充実	施策 計画	学力の向上				
事業目的・内容	<p>●目的 児童生徒の学習の場を市内全域に広げ、天草の伝統・文化・自然・歴史等とふれあい、体験活動を通して自分で考え、主体的に判断、行動し、よりよく問題を解決する力を育むなど「生きる力」を育成する。 また、「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の世界遺産登録に合わせ、構成地域の一つである崎津集落の現地学習を行い、地域の貴重な歴史的遺産について理解を深める。</p> <p>●内容 市内全小・中学校30校で総合的な学習活動の時間における体験学習等の校外活動を行う。</p>							
取組実績	<p>対象校：小学校17校 中学校13校 対象経費：交通費・講師謝礼等 【活動事例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校 社会施設見学、職業講話、茶摘み体験、米作り体験、地域の歴史・伝統・自然体験学習等 ・中学校 職業体験、職業講話、地域の歴史・伝統・自然体験学習等 ・世界遺産学 全小中学校において崎津集落での現地学習を含む年間10時間の学習を実施 							
決算額		指標：成果、活動の対象となるもの			評価			
令和4年度(千円)		指標名	単位	令和4年度	上位の施策 (目標)への 貢献	市関与の 必要性	達成状況	
2,985 (一般 2,985)		実施校数 (総合的な学習)	校	目標値				30
				実績値				30
		実施校数 (世界遺産現地学習)	校	目標値				30
				実績値	30			
					4	4	4	
成果 自己評価	各学校で自然環境・歴史・伝統・文化等の調査・観察・見学・体験活動(企業・工場・施設見学や職業・ふるさとの体験、オンライン講話など)を実施し、児童生徒の学習意欲の向上を図るとともに、天草の伝統・文化への理解を深めることができた。また、「世界遺産学」を教育課程に位置付けて取り組み、児童生徒を対象とした現地学習等を通して、地域の貴重な歴史遺産への理解を深めることができた。					総合評価 (方向性)		
課題	各学校で学習内容が異なるため予算を一律に配分することは困難であり、各学校のニーズに合わせた予算措置が必要である。 世界遺産学については、崎津集落の現地学習を柱としながらも、オンライン学習やICTを活用した資料作成などにも取り組み、より効果的に実践していく必要がある。 加えて、天草の豊かな地域資産を活用した体験型の学習機会をさらに創出していく必要がある。					継続		
方向性	総合的な学習の時間における体験学習等校外活動については、積極的に実施することとし、併せてICTを活用した調査学習等を行うことで、より効果的な「生きる力」の育成につなげる。							

点検評価調書		整理番号	6				
事業名	離島高校生修学費支援事業			担当課係名	教育総務課 総務企画係		
第2次総合計画 施策体系区分	経営方針	未来を拓く人を育む まちづくり	政策	学校教育の充実	施策計画 次世代の担い手を育む		
教育振興 基本計画	政策 (基本方針)	学校教育の充実	施策 計画	学力の向上			
事業目的・内容	<p>①離島高校生修学支援補助</p> <ul style="list-style-type: none"> ●目的 御所浦地域から高等学校等に通学する生徒の保護者の経済的負担を軽減する。 ●対象者 高等学校等に在学する生徒の保護者で、通学費若しくは下宿費等を負担している者。 ●補助対象経費及び補助額 <ul style="list-style-type: none"> ・御所浦地域から天草市内の高等学校に定期船で通学する場合の定期船定期券代の全額 ・御所浦地域を離れ、高等学校等に通学するために寮若しくはアパート等を利用している場合の住居費 月額10,000円を上限（10,000円未満の場合はその額） <p>②御所浦航路通学利便性強化補助</p> <ul style="list-style-type: none"> ●目的 御所浦地域から天草高等学校倉岳校に通学する生徒が、朝課外及び部活動等に参加する場合の修学環境の向上を図る。 ●補助内容 定期船が利用できない時間帯に、天草高等学校倉岳校の校長が事前に定めた行事（朝課外・部活動等）において海上タクシーを利用する場合、海上タクシー利用料の全額を補助する。 ●補助対象者 天草高等学校倉岳校御所浦地区保護者会 						
取組実績	<p>①離島高校生修学支援補助</p> <ul style="list-style-type: none"> ■通学費補助 補助対象生徒数 3名 補助額 648,000円 ■下宿費等補助 補助対象生徒数 40名 補助額 4,547,100円 計5,195,100円 <p>②御所浦航路利便性強化補助</p> <ul style="list-style-type: none"> ■利用日数 0日 利用船舶数 延べ0隻 利用者数 延べ0人 ■補助額 0円 						
決算額	指標：成果、活動の対象となるもの			評価			
令和4年度(千円)	指標名	単位	令和4年度		上位の施策 (目標)への 貢献	市関与の 必要性	達成状況
5,195 (国庫支出金 2,455) (県支出金 324) (一般 2,416)	補助対象者数	人	目標値		4	4	4
			実績値	43			
				目標値			
				実績値			
成果 自己評価	御所浦支所との連携を図り、適切な申請案内と事務処理を行うことができた。書類不備等のある申請者に対しても、支所と協力し連絡を取り対応を行った。					総合評価 (方向性)	
課題	対象となる申請者からの申請が遅延するケースもあり、中学校在籍時も含め、制度内容の周知を徹底する必要がある。また、補助制度については、市税の完納が条件となっており、市税の滞納がある申請者については、納税課と連携を図り、対応する必要がある。					継続	
方向性	離島振興策及び御所浦振興策による事業であり、高校生の保護者の経済的負担の軽減及び生徒の修学環境の向上につながるため、現状のまま継続する。						

点検評価調書		整理番号	7				
事業名	姉妹都市教育交流事業			担当課係名	教育総務課 総務企画係		
第2次総合計画 施策体系区分	経営方針	未来を拓く人を育む まちづくり	政策	国際化の推進	施策計画 国際化に対応した人 づくり		
教育振興 基本計画	政策 (基本方針)	学校教育の充実	施策 計画	学力の向上			
事業目的・内容	<p>●目的 本市の姉妹都市であるエンシニータス市（アメリカ合衆国・カリフォルニア州）と中学校生徒の派遣・訪問団受入れを交互に実施することにより、異なる文化や言語を学び、市民生活や学校生活を体験しながら交流を深め、幅広い視野と国際感覚を身につけ、郷土を担う心身ともに逞しい青少年育成を図る。</p> <p>●内容 隔年で中学校生徒の派遣、エンシニータス市からの訪問団の受入れを行う。</p> <p>■中学生の派遣 ①ホームステイ ②市長表敬訪問・ジャパンフェスティバル等への参加 ③ロサンゼルス市内観光等</p> <p>■エンシニータス市訪問団の受入れ ①文化交流事業（茶道・華道体験、イルカウォッチング等） ②市内中学校を訪問し交流学習 ③ホームステイ（市民との交流）</p>						
取組実績	<p>令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の収束の目途がつかず、直接交流は難しいと判断し、生徒用タブレットによるオンライン交流を実施した。</p> <p>■日 時：令和4年8月2、3、4日 9：00～12：00</p> <p>■参加者：市内中学生14名（各学校長の推薦）</p> <p>■活動内容：全体会（アイスブレイク） グループ活動（自己紹介、互いの町紹介、ディスカッション等）</p>						
決算額	指標：成果、活動の対象となるもの			評 価			
令和4年度(千円)	指標名	単位	令和4年度		上位の施策 (目標)への 貢献	市関与の 必要性	達成状況
29 (一般 29)	参加生徒数	人	目標値				
			実績値	14			
	目標値		4	4	4		
	実績値						
成 果 自己評価	新型コロナウイルス感染症の影響が続き、令和4年度はエンシニータス市からの受入れ事業を中止したが、生徒用タブレットを活用し、オンライン交流を実施することができた。中学生14名が参加し、ALTやICT支援員の協力のもと、異なる文化や言語を学び、交流を深めることができた。					総合評価 (方向性)	
課 題	姉妹都市交流及びグローバル人材育成のためにも、国際交流は今後も継続していく必要があるため、感染症や世界情勢等の影響で交流が途絶えることがないように事業継続に対する配慮や工夫が必要である。					継続	
方 向 性	今後も姉妹都市交流のうち教育事業の中学生等の派遣・受入れについては継続的に実施していく必要がある。令和5年度は訪問による直接交流を再開するが、今後も安全な派遣・受入れが可能となるよう両市で連携を密に情報交換することとし、継続とする。						

点検評価調書		整理番号	8				
事業名	心の教室相談事業			担当課係名	学校教育課 教務係		
第2次総合計画 施策体系区分	経営方針	未来を拓く人を育む まちづくり	政策	学校教育の充実	施策計画 次世代の担い手を育む		
教育振興 基本計画	政策 (基本方針)	学校教育の充実	施策 計画	心の教育の充実			
事業目的・内容	<p>●目的 不登校気味の生徒の適応問題や問題行動等に関係する生徒の教育相談等を実施し、問題解決につなげる。</p> <p>●内容 中学校の生徒が悩みを気軽に話し、ストレスを少しでも和らげることのできるような環境を提供するため、各中学校の相談室等に「心の教室相談員」を各1人配置する。 ①教育相談 ②相談室登校への対応 ③保護者との連携推進 ※報酬 1時間当たり1,000円 ※月40時間以内</p>						
取組実績	<p>市内中学校全13校に相談員を1人ずつ配置した。</p> <p>【心の教室相談員】 (配置校) 本渡中、本渡東中、稜南中、牛深中、牛深東中、有明中、御所浦中、倉岳中、 栖本中、新和中、五和中、天草中、河浦中 (相談件数) 4,979件</p>						
決算額	指標：成果、活動の対象となるもの			評価			
令和4年度(千円)	指標名	単位	令和4年度	上位の施策 (目標)への 貢献	市関与の 必要性	達成状況	
6,486 (一般 6,486)	相談件数	件	目標値				4,979
			実績値				
	相談員設置校数	校	目標値				13
			実績値	13			
成果 自己評価	<p>市内の全中学校に心の教室相談員を配置することができ、生徒の様々な悩み相談等に対して指導・助言を行ったことで、生徒のストレスを和らげたり、心のケアをすることができ、安心感や心のゆとりが生まれた。また、相談の内容によっては、学校関係者や関係機関、専門家等に繋ぎ、解決を図った。</p> <p>なお、相談件数の計上方法について、学校間で違いが見られた部分を修正した(相談内容が複数項目にまたがった場合であっても1相談当たり1件と統一した)ことで、前年度より2,700件程度減少した数字になっているが、相談需要自体に大きな変化はない。</p>				総合評価 (方向性)		
	課題	<p>相談が多数あっており、子ども達の悩み等に対する的確なアドバイスができるよう実態等を分析し、相談員の質の向上を図っていくことが重要である。そのためには、情報交換を含めた研修会等を更に充実させ、また、突発的事項等にも対応できるよう、学校との連携を図っていく必要がある。</p> <p>学校ごとに相談者数と相談件数が大きく異なる。可能な限り相談機会の損失を防ぎつつ、相談件数が少数の学校については、複数校を受け持つもらうなど、相談員の配置の工夫が必要である。</p>				継続	
方向性	<p>中学校の生徒が悩みを気軽に話し、ストレスを少しでも和らげることのできる環境を提供する場としての存在意義は非常に大きいため、今後も継続して取り組む。また、案件数に応じた業務量の平準化を図り、複数校を担当することも視野に入れ配置検討を行う。</p>						

点検評価調書		整理番号	9								
事業名	適応指導教室設置事業			担当課係名	学校教育課 教務係						
第2次総合計画 施策体系区分	経営方針	未来を拓く人を育む まちづくり	政策	学校教育の充実	施策計画 次世代の担い手を育む						
教育振興 基本計画	政策 (基本方針)	学校教育の充実	施策 計画	心の教育の充実							
事業目的・内容	<p>●目的 本渡中学校の分教室として天草市複合施設「ここらす」の一室に適応指導教室「カワセミ学級」を設置し、心理的又は情緒的理由により登校できない状態にある市内中学校生徒に対して、指導及び援助を行い、「引きこもり」の防止、学校復帰につなげる。</p> <p>●内容 教員免許を有する適応指導教室教員2人を配置し、不登校（気味）の生徒に対し、学習指導、教育相談等を実施する。 開級日：学校授業日のうち月曜日から金曜日 学級時間割：朝の会10：00（学習・給食） 帰りの会 15：00</p>										
取組実績	<p>様々な理由で学校に通学できない生徒の受け皿として、適応指導教室教員2人を配置した。</p> <p>開級日：学校授業日のうち月曜日から金曜日 学級時間割：朝の会10：00（学習・給食） 帰りの会15：00 通級生徒数：8人（うち学校へ復帰した生徒数 1人）</p>										
決算額		指標：成果、活動の対象となるもの			評価						
令和4年度(千円)		指標名	単位	令和4年度	上位の施策 (目標)への 貢献	市関与の 必要性	達成状況				
5,500 (一般 5,500)		通級生徒数 (うち学校へ復帰した生徒数)	人	<table border="1"> <tr> <td>目標値</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td>8 (1)</td> </tr> </table>				目標値		実績値	8 (1)
目標値											
実績値	8 (1)										
				<table border="1"> <tr> <td>目標値</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td></td> </tr> </table>	目標値		実績値		4	4	4
目標値											
実績値											
成果 自己評価	<p>心理的又は情緒的理由により登校できない状態にある市内中学校生徒に対して、学びの場を設け、「引きこもり」の防止、学校復帰を目的とした指導及び援助を行ったことで、令和4年度は8人の在籍に対し、1人が復帰することができた。</p>					総合評価 (方向性)					
課題	<p>カワセミ学級は本渡中学校の分教室という位置付けであるが、利用者は他の中学校の生徒も増えている。今後も本渡中学校だけでなく他の中学校にも、通級という形で当該学級に通えるカワセミ学級についての周知等を図り、また、オンライン授業や児童生徒のタブレットPCの持ち帰り等を含めた効果的な活用を図りながら、真に支援が必要な不登校（気味）の生徒に対して指導・支援を行っていく必要がある。</p> <p>令和5年5月に市内初のフリースクールが発足し、8月にも教育支援を行う民間施設が開校する予定である。これらの学校との連携を図っていく必要がある。</p>					継続					
方向性	<p>様々な理由により学校に登校できない生徒に、教育を受ける機会や社会と繋がる機会を提供する場としての存在意義は非常に大きいため、今後も継続して取り組む。</p>										

点検評価調書		整理番号	10					
事業名	天草市特別支援教育総合推進事業			担当課係名	学校教育課 指導係			
第2次総合計画 施策体系区分	経営方針	未来を拓く人を育む まちづくり	政策	学校教育の充実	施策計画 次世代の担い手を育む			
教育振興 基本計画	政策 (基本方針)	学校教育の充実	施策 計画	特別支援教育の充実				
事業目的・内容	<p>●目的 発達障害を含む障がいのある子どもや特別な支援を必要とする子ども一人一人に対し、教育的ニーズに応じた適切な教育や必要な支援の実施に向けて、特別支援教育の総合的な支援体制の整備及び特別支援教育の充実を図る。</p> <p>●内容 幼稚園・保育所（園）・学校・教育委員会・学識経験者・関係機関・保護者等の関係者からなる天草市特別支援教育連携協議会及び中学校区ごとの地区連携協議会（13区）を設置し、天草市の特別支援教育の総合的な支援体制の整備及び特別支援教育を推進する。</p>							
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・地区連携協議会（13区） ・推進会議（2回） ・天草市特別支援教育研修会（天草市コーディネーター研修）（1回） ・実務担当者会議（4回） ・リーダーコーディネーター研修（2回） <p>・市推進会議で、本年度の事業全体の計画及び取組について協議を行い、12月に評価を実施しその結果を取組改善につなげた。</p> <p>・巡回相談（72件）※対象：学校関係者、保護者</p>							
決算額		指標：成果、活動の対象となるもの			評価			
令和4年度(千円)		指標名	単位	令和4年度		上位の施策 (目標)への 貢献	市関与の 必要性	達成状況
232 (一般 232)		校内委員会、研修協力の 回数	回	目標値	20			
						実績値	14	
						4	4	3
成果 自己評価	<p>年度当初計画した会議、研修会を全て実施した。各地区推進会議及びコーディネーター会議は、各地区連携協議会長を中心に例年通り実施し、幼保小中高や関係機関との情報交換や助言・アドバイスを適宜受けることができた。</p> <p>巡回相談員等を活用し、各地区のニーズにあった講演会や研修会を行い特別支援教育を推進した。巡回相談事業については、令和4年度は72件の相談依頼に対応し学校関係者や保護者に対し特別な支援についての助言を行った。対象児童生徒を相談内容に応じて適切に関係機関へとつなぐことができた。</p> <p>令和3年度に特別支援教育の推進状況を把握するための評価項目や評価方法を見直し、4段階評価からチェックリストに変更したことで、評価基準が明確になり、課題が見えやすく、各園・各校及び各地区において課題解決に向けた特色ある取組みを推進することができた。</p>						総合評価 (方向性)	
課題	<p>保護者への情報提供や特別支援教育への理解・啓発について、市全体で情報共有しながら、保護者とともに特別支援教育を推進していく必要がある。</p> <p>併せて、巡回相談事業の周知方法を工夫して活用を推奨していくとともに各園・各校での研修を充実させる必要がある。</p>						継続	
方向性	<p>特別支援教育を必要とする園児及び児童生徒は多く、引き続き積極的な取組みとして継続して取り組む。</p>							

点検評価調書		整理番号	11					
事業名	教育相談事業			担当課係名	学校教育課 指導係			
第2次総合計画 施策体系区分	経営方針	未来を拓く人を育む まちづくり	政策	学校教育の充実	施策計画	次世代の担い手を育む		
教育振興 基本計画	政策 (基本方針)	学校教育の充実	施策 計画	特別支援教育の充実				
事業目的・内容	<p>●目的 教育の相談員（教育相談カウンセラー、教育指導アドバイザー）を配置し、子育ての悩み・不安・ストレス等を持つ就学前幼児の保護者及び、児童生徒やその保護者を対象にした相談活動を充実させ、保護者の子育てを応援する。</p> <p>●内容 就学前幼児の保護者及び、児童生徒やその保護者を対象にした相談活動（個別相談、研修・講話）及び教育全般への指導・助言（特別支援教育、不登校・いじめ等対策、幼稚園教育）を行う。また、必要に応じて教職員の悩みや学校での諸問題についての相談を受ける。</p>							
取組実績	<p>・教育相談日数40日予定のうち37日、延べ51件の個別相談と2回の研修会・講話の実施を行った。</p> <p>・子育て支援課や健康増進課との連携により活用が増え、就学前の特別支援教育が深まった。</p> <p>・小中学校では、12件の活用があり、言葉や心身の発達、不登校等の相談があった。</p> <p>・就学前は41件の相談活用であり、心身の発達に関する相談が主であった。</p> <p>・相談後の職員ミーティングで専門的な助言を受けることで、専門性の向上や指導力向上へつながった。</p> <p>教育相談カウンセラーの相談対象について 【臨床心理士・言語聴覚士】就学前15件、小学校1件、計 16件（うち研修会1件） 【臨床心理士】就学前5件 小学校1件 計6件 【言語聴覚士】就学前6件 小学校9件 計15件 【作業療法士】就学前15件 中学校1件 計16件（うち研修会1件）</p>							
決算額		指標：成果、活動の対象となるもの			評価			
令和4年度(千円)		指標名	単位	令和4年度		上位の施策 (目標)への 貢献	市関与の 必要性	達成状況
2,987 (一般 2,987)		教育相談日数	日	目標値	40			
				実績値	37			
						4	4	3
成果 自己評価	<p>専門的なアドバイスを受けられること、学校等を訪問できる作業療法士や言語聴覚士が県下にまだ少ない事等からカウンセリングを受けた保護者や園・学校等からの評価は高い。</p>						総合評価 (方向性)	
課題	<p>市の特別支援教育に関する相談は増加傾向にあり、本事業をさらに周知する必要がある。 カウンセラーは県下各地に在住しているため、長距離移動が必要であり、日によっては移動時間よりカウンセリングの時間が短い案件もあった。</p>						継続	
方向性	<p>現カウンセラーからは、的確な助言・指導があっており、関係者からの評価も高いところであるが、課題解決のためにも、天草市在住のカウンセラーや相談員の登用について、まずは情報収集に努める。 また、継続して相談を希望される保護者等も多いため、園や学校と連携して対応し、特別支援教育の充実等を図るため継続して取り組む。</p>							

点検評価調書		整理番号	12					
事業名	市指定教育研究推進校補助金			担当課係名	学校教育課 指導係			
第2次総合計画 施策体系区分	経営方針	未来を拓く人を育む まちづくり	政策	学校教育の充実	施策計画 次世代の担い手を育む			
教育振興 基本計画	政策 (基本方針)	学校教育の充実	施策 計画	教職員の資質の向上				
事業目的・内容	<p>●目的 絶え間ない技術革新とグローバル化が進展する変化の激しい社会に、主体的に対応し、たくましく生きる人材の育成を図るため、学校教育に求められている今日的な課題について学校および地域の実態に即して研究を深める。また、その成果を普及することにより本市教育の振興に資する。</p> <p>●内容 研究推進校を指定し独自の事業を実施する。指定校は5校とする。</p>							
取組実績	<p>指定校(6校) ※五和小学校、五和中学校は、小中連携教育において合同研究</p> <p>○本渡南小学校：「能動的に学び続ける力」を身につけるための実践的研究 ～子供がわくわくしながら学び合う授業改善を目指して～</p> <p>○本渡北小学校：「自ら考え、ともに高め合う北っ子」を目指して ～深い学びにつながる学び合いの授業づくり～</p> <p>○天草小学校：「好きです。天草」ふるさとを誇り、愛する子どもを育てるために ～天草体験学習を通して～</p> <p>○天草中学校：郷土を愛し、郷土を胸を張って誇れる生徒の育成 ～地域学習・地域体験・生き方学習を通して～</p> <p>○五和小学校 五和中学校：小中連携による「主体的・対話的で深い学び」をめざした教育実践 ～いえる つなぐ わかりあう 五和っ子をめざして～</p>							
決算額		指標：成果、活動の対象となるもの			評 価			
令和4年度(千円)		指標名	単位	令和4年度	上位の施策 (目標)への 貢献	市関与の 必要性	達成状況	
1,000 (一般 1,000)		指定校数	校区	目標値	5	4	4	4
				実績値	6			
				目標値		4	4	4
				実績値				
成 果 自己評価	<p>「主体的・対話的で深い学び」を実現するために、熊本県が示す「熊本の学び」推進プランをもとに、本渡南小、本渡北小の両校において学力充実研究指定校として授業改善の先進的な取組みを行い、天草市内の小中学校へ普及することができた。本渡南小では、学力充実と並行してICT活用の取組みを進めており、研究発表会では、東北大学大学院教授堀田龍也氏を招へいし、ICT活用についての講演会を実施した。</p> <p>五和小中においては、小中連携教育の充実をめざし、合同行事や職員の相互乗り入れ授業の実施など取組みのモデルを示して連携普及を推進した。</p> <p>天草小中においては、教育活動の中に地域素材、地域人材の活用を位置づけた計画を作成し「児童生徒の体験」を重視した教育の研究を実施した。</p>					総合評価 (方向性)		
課 題	<p>児童生徒主体の学習の在り方を具現化するため、「熊本の学び」推進プランを通じた授業づくりとICT活用について、さらなる研究・実践が必要である。加えて、当該研究・実践を市内各校へ波及させ、各校の実態に応じた教育実践へとつなげる必要がある。</p> <p>また、研究発表会の参加者に、校種、学年、教科の偏りが見られる点及び研究指定校が固定化される傾向がある点も課題として残る。</p>					継続		
方 向 性	<p>今後も専門家の助言を受けながら、学力充実、ICTを活用した教育及び小中連携教育について、研究に継続して取り組む。なお、天草小中学校では、令和5年11月に研究発表会を開催し、2年間の取組みのまとめを発表する予定である。</p>							

点検評価調書		整理番号	13					
事業名	コミュニティ・スクールの推進に向けた取組み			担当課係名	学校教育課 指導係			
第2次総合計画 施策体系区分	経営方針	未来を拓く人を育む まちづくり	政策	学校教育の充実	施策計画 次世代の担い手を育む			
教育振興 基本計画	政策 (基本方針)	学校教育の充実	施策 計画	学校・家庭・地域との連携				
事業目的・内容	<p>●目的 学校と保護者や地域の方がともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させることで、協働しながら子供たちの豊かな成長を支え「地域とともにある学校づくり」を進める。</p> <p>●内容 地教法第47条の6に基づいた取組であり、すべての学校で国版学校運営協議会の充実を図る。</p>							
取組実績	<p>・令和4年度末の状況 全30校（19協議会）において、コロナ禍の影響を受けない通常形態による運営が行われた。また、児童生徒が参画する協議会もみられるようになり、五者連携を念頭においた運営が行われた。</p> <p>地方教育行政の組織及び法律の改正（学校運営協議会の設置の努力義務化）に伴い、教育委員会が指定し、委員を委嘱するコミュニティスクールに全校移行する旨の理解を広げることができた。</p>							
決算額		指標：成果、活動の対象となるもの			評価			
令和4年度(千円)		指標名	単位	令和4年度	上位の施策 (目標)への 貢献	市関与の 必要性	達成状況	
941 (一般 941)		設置校数	校	目標値				30
				実績値	30			
				目標値		4	4	4
				実績値				
成果 自己評価	市内全30校において学校運営協議会が実施された。コロナ禍の影響もほとんどなく、通常の運営が行われ、防災、学習指導、行事等の学校運営において、委員の意見等を取り入れ、地域の教育力を生かした特色ある教育活動が行われた。					総合評価 (方向性)		
課題	学校と地域がどのような子供たちを育てていくのか、目標を共有し、一体となって「子供育て」に取り組んでいかなければならない。各校には地域協働活動推進員も配置されており、今後、横のつながりを強化し、充実した取組が展開されていくよう、活動の把握や各学校間の情報共有、先進的な取組みについての啓発等、計画的に進めていく必要がある。					継続		
方向性	令和5年度は「地域とともにある学校づくり」を、より一層推進するため、学校運営協議会において地域学校協働活動に係る協議を行うなど、地域や関係部署（生涯学習課等）と連携を深めながら、継続して取り組む。							

点検評価調書		整理番号	14		
事業名	小学校施設大規模改造事業			担当課係名	教育総務課 施設係
第2次総合計画 施策体系区分	経営方針	未来を拓く人を育む まちづくり	政策	学校教育の充実	施策計画 教育を支える 環境づくりの推進
教育振興 基本計画	政策 (基本方針)	学校教育の充実	施策 計画	教育を支える環境づくりの推進	
事業目的・内容	<p>学校施設は、児童が一日の大半を過ごす活動の場であるとともに、災害が発生する恐れがあるときや災害発生時には、地域住民の避難場所としての役割も果たすことから、その安全性の確保は極めて重要である。天草市学校施設個別施設計画に基づき、老朽化した建物について、建物全体を改造する工事を行い、建物の長寿命化及び耐久性を確保し、児童が心地よく学習できるよう教育環境の改善を図る。</p>				
取組実績	<p>●総事業費 54,419千円 ●事業内容 ・測量設計等委託料 2,233千円 (栖本小学校トイレ改修工事監理業務委託、河浦小学校トイレ改修設計業務委託 2件) ・使用料及び賃借料 1,002千円 (本渡北小学校仮設校舎賃借料 1件) ・工事請負費 51,184千円 (栖本小学校トイレ改修工事 (建築・設備)、本渡南小学校内部改修工事、本渡南小学校渡り廊下手摺設置工事、本渡北小学校特別支援教室増設工事、本渡北小学校特別支援教室空調設備設置工事 6件)</p>				
決算額	指標：成果、活動の対象となるもの			評 価	
令和4年度(千円)	指標名	単位	令和4年度		上位の施策 (目標)への 貢献 市関与の 必要性 達成状況
54,419 (国庫補助金 16,273) (市債 33,200) (一般 4,946)	整備件数	校	目標値	2	
			実績値	1	
	測量設計委託件数	校	目標値	1	
			実績値	1	
4	4	4			
成 果 自己評価	<p>栖本小学校トイレ改修工事 (建築・設備) 及び本渡南小学校と本渡北小学校の特別支援に関連する工事等合計6件を行った。併せて、令和4年度工事の監理業務委託1件、令和6年度以降工事予定の測量設計業務委託の1件、合計2件の委託業務を行った。 また、本渡北小学校仮設校舎については、児童増加に伴う教室不足が解消できていないため、令和7年度末まで賃貸借の契約を行っている。</p>				総合評価 (方向性)
課 題	<p>国庫補助金を財源とするため、国からの補助採択がなければ計画年度で改修工事を実施することができない。また、補助対象外の大規模改修工事については、別に財源を確保する必要がある。</p>				継続
方 向 性	<p>天草市学校施設個別施設計画 (令和4年～令和13年) 及び定期点検の結果等を踏まえながら老朽化している施設の状況を把握し、計画的に事業を実施していく。</p>				

点検評価調書		整理番号	15				
事業名	中学校施設大規模改造事業			担当課係名	教育総務課 施設係		
第2次総合計画 施策体系区分	経営方針	未来を拓く人を育む まちづくり	政策	学校教育の充実	施策計画	教育を支える 環境づくりの推進	
教育振興 基本計画	政策 (基本方針)	学校教育の充実	施策 計画	教育を支える環境づくりの推進			
事業目的・内容	学校施設は、生徒が一日の大半を過ごす活動の場であるとともに、災害が発生する恐れがあるときや災害発生時には、地域住民の避難場所としての役割も果たすことから、その安全性の確保は極めて重要である。天草市学校施設個別施設計画に基づき、老朽化した建物について、建物全体を改造する工事を行い、建物の長寿命化及び耐久性を確保し、生徒が心地よく学習できるよう教育環境の改善を図る。						
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ●総事業費 172,668千円 ●事業内容 <ul style="list-style-type: none"> ・役務費 114千円 (計画通知等手数料 計3件) ・測量設計委託料 4,411千円 (栖本中学校トイレ改修工事監理業務委託、本渡東中学校E V棟増築工事監理業務委託、稜南中学校トイレ改修設計業務委託 計3件) ・工事請負費 168,144千円 (栖本中学校トイレ改修建築工事(建築・設備)、本渡東中学校校舎E V棟増築工事(建築・設備)、本渡東中学校体育館E V棟増築工事(建築・設備)、本渡東中学校校舎バリアフリー改修工事、河浦中学校特別支援教室改修工事等 計11件) 						
決算額	指標：成果、活動の対象となるもの			評 価			
令和4年度(千円)	指標名	単位	令和4年度		上位の施策 (目標)への 貢献	市関与の 必要性	達成状況
172,668 (国庫補助金 74,279) (市債 96,700) (一般 1,689)	整備件数	校	目標値	2			
			実績値	2			
	測量設計委託件数	校	目標値	1	4	4	4
			実績値	1			
成 果 自己評価	<p>栖本中学校トイレ改修工事(建築・設備)及び本渡東中学校E V棟増築と、河浦中学校特別支援教室改修工事に関する工事等合計11件を行った。また、令和4年度工事の監理業務委託2件、令和6年度以降工事予定の測量設計業務委託1件、合計3件の委託業務を行った。</p>					総合評価 (方向性)	
課 題	<p>国庫補助金を財源とするため、国からの補助採択がなければ計画年度で改修工事を実施することができない。また、補助対象外の大規模改修工事については、別に財源を確保する必要がある。</p>					継続	
方 向 性	<p>天草市学校施設個別施設計画(令和4年～令和13年)及び定期点検の結果等を踏まえながら老朽化している施設の状況を把握し、計画的に事業を実施していく。</p>						

点検評価調書		整理番号	16				
事業名	小中学校 ICT 整備事業			担当課係名	学校教育課 教務係		
第2次総合計画 施策体系区分	経営方針	未来を拓く人を育む まちづくり	政策	学校教育の充実	施策計画 教育を支える環境づくりの推進		
教育振興 基本計画	政策 (基本方針)	学校教育の充実	施策 計画	教育を支える環境づくりの推進			
事業目的・内容	<p>●目的 市内の小中学校へICT機器を整備することにより学校における情報化への対応を進め、①情報活用の実践力、②情報の科学的な理解、③情報社会に参画する態度の3つの観点から児童・生徒の情報活用能力の育成を図る。また、校務の効率化、セキュリティ対策の強化を目的に全教職員へ校務用パソコンを配備し、イントラネットや共有サーバも提供することで情報の共有化を図る。</p> <p>●内容 校務用パソコン及び大型ディスプレイなどの機器の購入や修繕、保守など、小中学校におけるICT環境の整備を行う。</p>						
取組実績	<p>○GIGAスクール構想に伴う大型ディスプレイの購入 市立学校の普通教室41クラスに65型の大型ディスプレイを配備した。</p> <p>○ICT支援員の配備 令和4年度は常勤3人に増員して運用、さらに令和5年度は常勤4人体制とする。</p> <p>○校務用PC (2in1仕様) の購入 現在職員室では校務用PC、教室では授業用タブレットPCの2台持ちで運用しているが、1台でネットワークを兼用できるPCを試験的に導入(14台)した。管理上問題がなく、操作性も向上したため、これを採用し、令和5年度から3年間で教師用PCの更新を行うこととした。</p>						
決算額		指標：成果、活動の対象となるもの			評価		
令和4年度(千円)		指標名	単位	令和4年度	上位の施策 (目標)への 貢献	市関与の 必要性	達成状況
46,525 (国支出金 23,633,280円) (寄付金 5,800,000円) (ふるさと応援寄付金 17,091,000円) (一般財源245円)		ICT支援員の数	人	目標値			
				実績値	3	4	4
				目標値			
				実績値			
成果 自己評価	<p>児童生徒が情報社会に主体的に対応できる「情報活用能力」を身につけることの重要性が高まる中で、ICT機器を活用した「分かる授業」の実施により、「確かな学力」の育成に貢献している。</p> <p>令和3年度より本格運用している児童生徒1人1台タブレット端末の活用を図るため、ICT機器を活用した授業の研究を学力・ICT部会を中心に行い、また、技術的な対応をICT支援員が行うことで、授業構成の土台作りと課題の整理ができた。</p> <p>校務に係る負担軽減を図るため、令和3年度に導入済の校務支援ソフトの活用に引き続き取り組んだ。</p> <p>大型ディスプレイの配備、アクセスポイントの移・増設等ICTインフラの改善に取り組んだ。</p>					総合評価 (方向性)	
課題	<p>国のGIGAスクール構想の推進により急激に変化するICT環境に対し、設備整備と人材の両面において、対応できる学校及び市教委の体制を引き続き整えていく必要がある。加えて、児童生徒のICT機器の活用能力の向上や児童生徒が主体的に学ぶ意欲を引き出す授業づくりができるよう、学力・ICT部会を中心に、今後も教職員のICT機器の操作・活用方法などの研修を引き続き実施する必要がある。</p>					継続	
方向性	<p>近い将来、児童生徒タブレットPCの更新が必要となってくることから、関連するICT機器の更新も含め、市情報政策課及び財政課と対応を検討する。</p> <p>また、技術革新を反映させつつ、更新に係る計画を適宜整えながら、無理のない事業執行につなげ、継続して取り組む。</p>						

事業名	地産地消の推進	担当課係名	学校給食課 管理係
-----	---------	-------	-----------

第2次総合計画 施策体系区分	経営方針	未来を拓く人を育む まちづくり	政策	学校教育の充実	施策計画	学校給食の充実
-------------------	------	--------------------	----	---------	------	---------

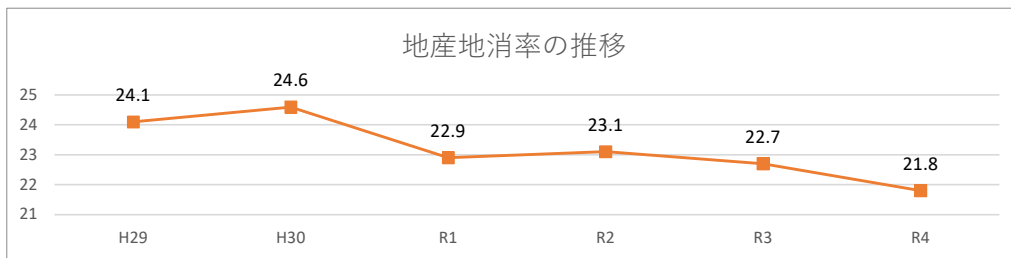
教育振興 基本計画	政策 (基本方針)	学校教育の充実	施策 計画	学校給食における食の安全と食文化の推進		
--------------	--------------	---------	----------	---------------------	--	--

事業目的・内容

- ・安全・安心でおいしい給食の提供に努めるとともに地産地消を推進する。
- ・天草産・熊本県産の旬の野菜等生産物の購入により、感謝の心を育てたり、地域資源でもある農水産物に興味を持たせ、生産者等の顔が見える給食づくりを目指す。

取組実績

- ・天草市の「地場産品給食提供事業」を活用し、天草大王、天然シイラ、天然タチウオ、養殖マダイ・養殖ブリを市内全小・中学校及び公立幼稚園の給食に提供。(魚7回、天草大王4回)
- ・お魚給食の出前講座を小・中学校10校で行った。
- ・毎月19日を「食育の日」として設定し、各給食センターで天草産の特産物や郷土料理を献立に取り入れた。
- ・あまくさで栽培している「きくらげ」の使用を各センターへ推進し、給食で使用している。



決算額	指標：成果、活動の対象となるもの			評価			
令和4年度(千円)	指標名	単位	令和4年度		上位の施策 (目標)への 貢献	市関与の 必要性	達成状況
-	品目ベースの地産地消率 (天草産食材の品目)	%	目標値	令和4年度 30.0			
			実績値	21.8			
	出前講座の開催	回	目標値	10	4	4	3
			実績値	10			

成果自己評価

各センターで、地場産品を給食に取り入れるための様々な工夫を行った。
また、各種事業を活用し、地場産品を学校給食で提供したが、天候等にも左右され目標値には至らなかった。
経済部と連携し地場産品の出前講座を実施することが出来た。

課題

学校給食における天草産食材の流通ルートの確保と日常的に地元食材を使用できる体制づくりが必要である。
今後、物価の高騰の継続が予想されるので、献立を工夫しながら、栄養バランスや量を保った学校給食を提供していく必要がある。

方向性

地元の食材を利用した献立の内容を充実して継続していく。
地元食材の学校給食の活用については、食材の確保等の課題があるため、給食の供給数が比較的少ない給食センターで年次計画を立てて供給することを試験的に行う。

総合評価
(方向性)

見直して継続

点検評価調書		整理番号	18				
事業名	学校給食施設整備事業			担当課係名	学校給食課 管理係		
第2次総合計画 施策体系区分	経営方針	未来を拓く人を育む まちづくり	政策	学校教育の充実	施策計画 学校給食の充実		
教育振興 基本計画	政策 (基本方針)	学校教育の充実	施策 計画	学校給食における食の安全と食文化の推進			
事業目的・内容	各給食センターの給食設備を「天草市学校給食基本計画」に基づき整備・更新し、安全・安心 でおいしい給食を提供する。						
	令和4年4月1日 現在						
		建築年月	経過年数	幼稚園	小学校	中学校	食数
	本渡	昭和50年3月	47	3	7	3	3,718
	牛深	平成20年3月	14		3	3	900
	御所浦	昭和62年3月	35		1	1	143
	栖本	平成14年12月	19		2	2	310
	新和	昭和43年3月	54		1	1	179
	五和	平成11年2月	23		1	1	490
	天草	昭和56年3月	41		1	1	120
有明小	平成29年11月	4		1		199	
有明中	平成17年3月	17			1	116	
合計			3	17	13	6,175	
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・移設手数料 527,010円 本渡他：冷蔵庫等移設、撤去他 ・設計委託 165,000円 御所浦：設備改修設計 ・給食設備の更新等 5,577,786円 御所浦：冷蔵庫2台、有明中：冷蔵庫2台、五和：冷蔵庫等4台 ・施設の改修工事 5,082,000円 五和：浄化槽設置工事、廃止工事、御所浦：前処理室改修工事、食品庫改修工事、 牛深：高圧受設備改修工事 						
決算額	指標：成果、活動の対象となるもの			評価			
令和4年度(千円)	指標名	単位	令和4年度		上位の施策 (目標)への 貢献	市関与の 必要性	達成状況
11,352 (一般 11,352)	対象事業数	件	目標値	11			
			実績値	13			
	目標値		4	4	4		
	実績値						
成果 自己評価	老朽化した給食設備については、安全・安心な給食を安定的に提供するため、改修等に取り組むことができた。					総合評価 (方向性)	
課題	施設の老朽化が進んでおり、計画的に施設の改修・改築や統廃合を図る必要がある。					継続	
方向性	老朽化した給食設備及び施設について、処理能力やランニングコストを検討しながら計画的に更新していく。 牛深については、令和5年度に設備改修業務委託を行い、耐用年数を考慮した計画的な施設、設備の更新を行う。						

点検評価調書		整理番号	19														
事業名	本渡学校給食センター建設事業			担当課係名	学校給食課 管理係												
第2次総合計画 施策体系区分	経営方針	未来を拓く人を育む まちづくり	政策	学校教育の充実	施策計画 学校給食の充実												
教育振興 基本計画	政策 (基本方針)	学校教育の充実	施策 計画	学校給食における食の安全と食文化の推進													
事業目的・内容	<p>本渡学校給食センターは、建築後46年経過し老朽化が著しいため、移転改築し、建築後53年経過し老朽化が著しい新和学校給食センターと統合する。</p> <p>(スケジュール)</p> <table border="0"> <tr> <td>平成30年度</td> <td>基本計画、用地取得</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>基本設計、地質調査</td> </tr> <tr> <td>令和元～2年度</td> <td>実施設計</td> </tr> <tr> <td>令和2～4年度</td> <td>センター建設（鉄骨造2階建 2,510.40㎡） 厨房機器設置</td> </tr> <tr> <td>令和4年度</td> <td>2学期より給食運用開始</td> </tr> <tr> <td>令和5年度</td> <td>外構工事（駐車場）</td> </tr> </table>					平成30年度	基本計画、用地取得	令和元年度	基本設計、地質調査	令和元～2年度	実施設計	令和2～4年度	センター建設（鉄骨造2階建 2,510.40㎡） 厨房機器設置	令和4年度	2学期より給食運用開始	令和5年度	外構工事（駐車場）
平成30年度	基本計画、用地取得																
令和元年度	基本設計、地質調査																
令和元～2年度	実施設計																
令和2～4年度	センター建設（鉄骨造2階建 2,510.40㎡） 厨房機器設置																
令和4年度	2学期より給食運用開始																
令和5年度	外構工事（駐車場）																
取組実績	建設工事（建築・電気設備・機械設備）及び厨房機器の設置について、予定どおり工事を進める事が出来た。																
決算額		指標：成果、活動の対象となるもの			評価												
令和4年度(千円)		指標名	単位	令和4年度	上位の施策 (目標)への 貢献	市関与の 必要性	達成状況										
1,082,233 (一般 358) (その他 66,347) (市債 894,800) (国庫補助金 120,728)		工事進捗率	%	目標値				100									
				実績値	100	4	4	4									
成果 自己評価	<p>予定どおりに建設工事が完了し、2学期から給食を提供することが出来た。</p> <p>令和5年度の駐車場整備で業務完了となる。</p>					総合評価 (方向性)											
課題	令和5年度の駐車場整備については、県の棧橋撤去工事の関係があり、令和5年度中に完了できない可能性がある。					終了											
方向性	駐車場整備については、県と連携して進めていく。																

点検評価調書		整理番号	20				
事業名	二十歳のつどい開催事業			担当課係名	生涯学習課 生涯学習推進係		
第2次総合計画 施策体系区分	経営方針	未来を拓く人を育む まちづくり	政策	生涯学習の推進	施策計画	生涯学習の推進	
教育振興 基本計画	政策 (基本方針)	生涯学習の充実	施策 計画	生涯学習の推進			
事業目的・内容	<p>●目的 二十歳という人生の節目を迎え、大人としての生き方を考え決意する場、友人と再会し、その喜びに浸るとともに、今後の生き方を語り合い励ましあう場、家族が子ども・孫の成長を実感し喜びを分かち合い、家族への感謝を感じる場とする。</p> <p>●内容 ○開催方法等 各地区ごとに開催 ・8月16日：牛深 ・1月3日：本渡、有明、倉岳、栖本、天草、河浦 ・1月4日：御所浦、新和、五和 ○二十歳のつどい対象者が実行委員を担い、式の企画、立案や司会等を行う。 ○記念動画や恩師メッセージ等の動画を制作し、式典での放映やYouTube限定配信を行う。</p>						
取組実績	○令和4年度二十歳のつどいについては、8月16日、1月3日・4日に10地区で開催。						
	開催日		開催地区	対象者	出席者	出席率	
	令和4年8月16日		牛深地区	105人	82人	78.1%	
	令和5年1月3日		本渡地区	405人	321人	79.3%	
			有明地区	44人	37人	84.1%	
			倉岳地区	29人	25人	86.2%	
			栖本地区	32人	29人	90.6%	
			天草地区	28人	24人	85.7%	
	令和5年1月4日		河浦地区	36人	26人	72.2%	
			御所浦地区	26人	26人	100.0%	
新和地区			19人	14人	73.7%		
		五和地区	70人	57人	81.4%		
合計			794人	641人	80.7%		
決算額	指標：成果、活動の対象となるもの			評価			
令和4年度(千円)	指標名	単位	令和4年度		上位の施策 (目標)への 貢献	市関与の 必要性	達成状況
1,137 (一般 1,137)	出席率	%	目標値	85.0			
			実績値	80.7			
		目標値		4	4	4	
		実績値					
成果 自己評価	令和4年4月1日からの成年年齢の引き下げに伴い、名称を「二十歳のつどい」に変更して実施。二十歳になったことを実感するとともに社会人としての責任と義務を自覚する機会となった。 令和3年度から式典の開催内容の見直しを行い、記念写真を記念動画制作に切り替え、当日の会場での放映及びYouTubeによる限定配信を行うことができた。					総合評価 (方向性)	
課題	今後は、二十歳の対象者数も減少する傾向にあるため、二十歳のつどいのあり方についてアンケートを実施するなど見直し検討を行う必要がある。					見直して継続	
方向性	今後対象者の数が減少する傾向にあるため、アンケート調査などを行い、令和6年度までにあり方の協議をあらためて行うこととしている。 また、魅力のある式典となるよう「二十歳のつどい」の開催方法について、実行委員と共に協議検討していく。						

点検評価調書		整理番号	21					
事業名	移動図書館事業			担当課係名	生涯学習課 中央図書館庶務係			
第2次総合計画 施策体系区分	経営方針	未来を拓く人を育む まちづくり	政策	生涯学習の推進	施策計画 生涯学習の推進			
教育振興 基本計画	政策 (基本方針)	生涯学習の充実	施策 計画	生涯学習の推進				
事業目的・内容	<p>●目的 図書館のない地域、図書館から遠い地域に住む市民のため、移動図書館車で地域を巡回し、図書館サービスを提供することで、市民の読書活動を推進する。</p> <p>●内容 移動図書館車3台で市内全域に実施している。 ①中央図書館…本渡・有明・倉岳・栖本・新和・五和地区52箇所実施（車両：H25年度購入） ②御所浦図書館…横浦島を含む御所浦全域 24箇所実施（車両：公用車175号車） ③河浦図書館…牛深・天草・河浦地区 64箇所実施（車両：H22年度経済対策により購入）</p>							
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問箇所：140箇所（保育園・幼稚園等13園、小中高校29校、施設54箇所、団体44箇所） ・貸出冊数：114,566冊 ・利用者数：9,856人 							
決算額		指標：成果、活動の対象となるもの			評価			
令和4年度(千円)		指標名	単位	令和4年度		上位の施策 (目標)への 貢献	市関与の 必要性	達成状況
8,315 (一般 8,315)		貸出冊数	冊	目標値	99,000			
				実績値	114,566			
		利用者数	人	目標値	10,000	4	4	4
				実績値	9,856			
成果 自己評価	<p>貸出冊数については移動図書館の効果的な見直し、配本箇所の拡充を図った結果、目標値より約15,500冊の増となった。 また、令和4年度は、移動図書館事業の認知度を向上させるため、ラジオやケーブルテレビなど幅広く広報に努め、銀天街の「まちはみんなの遊園地」に移動図書館車を定期的に巡回するなど、新規利用者の増につなげることができた。</p>						総合評価 (方向性)	
課題	<p>移動図書館の巡回については、市政だよりやホームページ等で新たなグループの登録募集を実施しているが、配本と合わせた効率的なやり方を工夫し、利用増につながるサービスを提供していく必要がある。 また、移動図書館車の老朽化による買い替え時期についても検討する必要がある。</p>						見直して継続	
方向性	<p>地域の声や利用者のニーズを把握するためのアンケートを実施し、幼稚園、小・中学校、児童館等への配本図書を充実し、学校図書館等に所蔵していない図書と出会う機会を増やし、子どもの読書活動の推進を図っていく。 また、各館で発行している図書館だよりを全館統一に見直し、市政だより、ホームページ、ラジオやケーブルテレビなどで広く市民へ周知し、図書館から遠い地域に住む市民の利用につなげていく。</p>							

点検評価調書		整理番号	22				
事業名	読書活動推進事業			担当課係名	生涯学習課 中央図書館庶務係		
第2次総合計画 施策体系区分	経営方針	未来を拓く人を育む まちづくり	政策	生涯学習の推進	施策計画 生涯学習の推進		
教育振興 基本計画	政策 (基本方針)	生涯学習の充実	施策 計画	生涯学習の推進			
事業目的・内容	<p>●目的 市民に読書の楽しさを理解してもらい、意欲的に読書に親しんでもらう機会を提供することで、市民の読書活動の推進を図る。</p> <p>●内容 天草市立図書館読書イベント、読み聞かせボランティア交流会、読み聞かせボランティア講座、古文書学習会、アマクサ・ライブラリー・カフェ、巡回講座の実施。</p>						
取組実績	<p>○読書イベント…絵本作家 きむらゆういちさん講演会（開催1回、参加78人）</p> <p>○読み聞かせボランティア交流会・講座（開催4回、参加82人）</p> <p>○古文書学習会…（開催10回、参加93人）</p> <p>○みずのわ読書会…（開催10回、参加37人）</p> <p>○アマクサ・ライブラリー・カフェ…（開催2回、参加57人）</p> <p>○巡回講座…（開催9回、参加331人）</p> <p>○おはなし会（開催33回、参加408人）</p> <p>○ビブリオバトル（開催1回、参加17人）</p> <p>○ありすボランティア委嘱（小・中・高校生23人、活動150回）</p> <p>○読書バリアフリーイベント（開催2回、参加23人）</p> <p>○関係部署とのコラボ展示（開催32回、関連図書貸出1,067冊）</p> <p>○レファレンス（相談業務）8,518件</p>						
決算額		指標：成果、活動の対象となるもの			評価		
令和4年度(千円)		指標名	単位	令和4年度	上位の施策 (目標)への 貢献	市関与の 必要性	達成状況
386 (一般 386)		図書館貸出冊数	冊	目標値 467,000 実績値 435,836			
		図書館利用者数 (※来館者数)	人	目標値 100,000 実績値 125,510	4	4	4
成果 自己評価	<p>全図書館合わせての利用者数（来館者数）は、目標値より約25,500人増となった。</p> <p>図書館・図書室の貸出冊数は、河浦図書館の空調工事などもあり、目標値に及ばなかった。</p> <p>ありすボランティア事業は、小・中・高校生のボランティアが読み聞かせなど自主的に活動し、読書習慣を身に付けることにつながった。</p> <p>読み聞かせボランティアによる巡回講座を再開し、本に親しむ機会を提供する子どもの読書活動の推進を図ることができた。</p> <p>レファレンスサービスは、昨年度より609件増と、情報や資料の提供等で市民の課題解決につながった。</p>					総合評価 (方向性)	
課題	<p>高齢化等によりボランティア数が減少しており、読み聞かせボランティア交流会や講座等を継続して行う必要がある。</p> <p>また、図書館資料の照会や郷土資料の調査研究などに対応するレファレンス（相談業務）の充実に図り、サービスの周知を図る必要がある。</p>					見直して継続	
方向性	<p>市民のニーズを把握するため、アンケートを実施し、生涯学習の拠点機能を活かし、読書活動の推進や学びの機会につなげていく。</p> <p>また、自動貸出機サービスやセルフ貸出機サービスの提供により利用者の利便性を図り、ホームページ・SNS、ラジオ・ケーブルテレビなどにより情報発信を行っていく。</p> <p>さらに、関係部署や読み聞かせボランティアとの連携、協力により市民参画による読書活動を推進していく。</p>						

点検評価調書		整理番号	23					
事業名	生涯学習推進事業			担当課係名	生涯学習課 生涯学習推進係			
第2次総合計画 施策体系区分	経営方針	未来を拓く人を育む まちづくり	政策	生涯学習の推進	施策計画 生涯学習の推進			
教育振興 基本計画	政策 (基本方針)	生涯学習の充実	施策 計画	生涯学習の推進				
事業目的・内容	<p>●目的 生涯学習の充実を図るため、市民に多様な学習機会の提供を行うとともに、学習情報の提供や学習相談の充実を図る。</p> <p>●内容 ・市民全体に学習の機会を提供するため、各地区公民館単位で人権学習、家庭教育などの全体講座の開催。 ・学習の機会が得にくい市民に対して、各地区に講師等を派遣し、健康づくり、消費生活などの地域講座の開催。 ・市民のニーズや要望に対して、地域の人材を生かした生涯学習人材バンクを活用した講座の開催。 ・ホームページ・ケーブルテレビ・みつばちラジオのほか、紙媒体を活用した講座情報を発信。 ・講座受講者が学んだ成果を発表する場の提供。</p>							
取組実績	<p>○全体講座の開催(市民全体に対し、公民館単位で学習の機会の提供) 開催数79回 参加延べ人数2,296人</p> <p>○地域講座の開催(比較的学習の機会が得にくい市民が参加しやすいよう身近な場所で学習の機会を提供) 開催数272回 参加延べ人数4,587人</p> <p>○市民の学習ニーズや要望に対応した講座の開催(生涯学習人材バンクを活用した講座の開催) 開催数9回 参加延べ人数125人</p> <p>○中央生涯学習センター講座の開催 開催数57回 参加延べ人数542人 講座開催数計417回。多様な学習の機会を述べ7,550人の市民の方に提供することができた。</p> <p>○出前講座の開催(SDGsの理念を踏まえ本市が重点的に取り組んでいる施策や事業等に関する情報を提供)講座申請件数192回</p>							
決算額		指標：成果、活動の対象となるもの			評価			
令和4年度(千円)		指標名	単位	令和4年度	上位の施策 (目標)への 貢献	市関与の 必要性	達成状況	
3,791 (一般 3,791)		講座開催数	回	目標値				400
					実績値	417		
		参加者延べ人数	人	目標値	15,000	4	4	4
					実績値			
成果 自己評価	令和3年度に引き続き、コロナ禍の影響により企画していた講座の中止や参加人数の制限等、市民への学習機会の提供が難しい状況であったが、講座の開催方法の見直しを行い、各種団体と連携した講座の開催や体験型の講座など内容等を工夫し、学習機会の提供につなげることができた。また、市政情報番組での講座情報の発信など、効果的な方法で周知につなげることができた。					総合評価 (方向性)		
課題	講座の進め方や学習の機会、学習情報の発信の方法などを工夫し、市民の学習環境の充実につなげる必要がある。また、幅広い年齢層や参加者のニーズに合わせた講座や開催時間の見直しを行っていく必要がある。					見直して継続		
方向性	各地区公民館講座及び中央生涯学習センター講座の効果的な学習内容、講座の進め方、学習情報の発信方法などを見直し、市民の学習環境の充実につなげる。また、出前講座や各種講座等について、ケーブルテレビやみつばちラジオを活用した学習情報の提供を行っていく。							

点検評価調査		整理番号	24				
事業名	青少年健全育成事業			担当課係名	生涯学習課	生涯学習推進係	
第2次総合計画 施策体系区分	経営方針	未来を拓く人を育む まちづくり	政策	生涯学習の推進	施策計画	生涯学習の推進	
教育振興 基本計画	政策 (基本方針)	生涯学習の充実	施策 計画	生涯学習の推進			
事業目的・内容	<p>●目的 青少年の健やかな成長を支援するため、自然とのふれあいをはじめとする様々な体験活動や青少年同士の交流等の多様な活動の機会を提供するとともに、学校教育、社会教育などすべての教育力の向上を図ることを目的とする。また、社会を明るくする運動は、全国的な運動であり、青少年の非行防止を目的としている。</p> <p>●内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 青少年健全育成事業補助金 青少年の各種体験活動及び交流活動を実施する団体に対する補助（総事業費の1/2補助） 居住地を限定して実施する事業 上限10万円 3団体 市内全域を対象とする事業 上限15万円 2団体 社会を明るくする運動の開催 保護司会と連携し、青少年の非行防止のため広報、啓発活動の実施。標語、作文の表彰、青少年育成活動の発表、講演等 青少年健全育成に関する事業及び青少年健全育成・教育推進フォーラムの開催 教育活動の事例発表、講演会等 天草市青少年育成協議会と連携し、防犯パトロールや広報活動の実施 						
取組実績	<p>○青少年健全育成事業補助金実施（3団体）、申請（5団体）</p> <ul style="list-style-type: none"> NPO法人天草みどりの村「2022 夏あまくさ自然学校」 補助金額150,000円、参加者総数 279人（小学生220人） 一般社団法人天草本渡青年会議所「伝える・伝える・分かり合う～世界に友達できるかな～」 補助金額130,000円、参加者総数 34人（中学生13人） あまくさオーガニック給食推進協議会「オーガニックカレー作り&おはなし会」 補助金額74,000円、参加者総数 52人（未就学児・小中学生25人） <p>○“社会を明るくする運動”の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護司会と連携し、青少年の非行防止のため広報、啓発活動の実施。 “社会を明るくする運動”作文、標語の表彰式、内閣総理大臣メッセージ伝達式、入賞者の作文発表、講演会を開催した。 作文、標語応募数 作文309点、標語721点（合計1,030点） <p>○青少年健全育成に関する事業及び青少年健全育成・教育推進フォーラム</p> <ul style="list-style-type: none"> 教育活動の事例発表、講演会の実施。 天草小学校の取組（実践発表）・地域学校協働活動状況報告（事例発表） 記念講演 講師：東京2020パラリンピック ゴールボール銅メダリスト 浦田理恵さん 						
決算額	指標：成果、活動の対象となるもの			評 価			
令和4年度(千円)	指標名	単位	令和4年度	上位の施策 (目標)への 貢献	市関与の 必要性	達成状況	
653 (一般 653)	社会を明るくする運動 標語、作文応募数	点	目標値	1,000	4	4	4
			実績値	1,030			
	補助金申請団体数	団体	目標値	5	4	4	4
			実績値	5			
成果 自己評価	<p>青少年健全育成補助金については、団体自らが青少年の健全育成を目的とした体験活動や交流活動の振興につなげることができた。</p> <p>“社会を明るくする運動”については、作文や標語の募集、入賞者の作文発表、研修会等を実施し、啓発活動に取り組むことができた。</p> <p>青少年健全育成・教育推進フォーラムについては、コロナ禍により参加人数を制限しての開催となったが、天草小学校児童による合唱と実践発表や講演会等を実施することができた。</p>					総合評価 (方向性)	
課 題	<p>青少年健全育成補助金については、新規の団体にも活用してもらうため、学校や社会教育活動団体などへも周知する必要がある。</p> <p>“社会を明るくする運動”及び青少年健全育成・教育推進フォーラムについては開催方法等を工夫し実施する必要がある。</p>					見直して継続	
方向性	<p>青少年健全育成事業補助金については、市内の青少年育成活動がさらに拡充するように、多くの市民団体等に実施を呼びかけていく。</p> <p>“社会を明るくする運動”については、継続して作文や標語の募集を行い、表彰式や講演会等について構成団体や市民へ広く周知していく。</p> <p>青少年健全育成・教育推進フォーラムについては、これまでの内容等を見直し、学校と地域が目標を共有し一体となって地域の子どもたちを育む「地域とともにある学校づくり」を目指し取り組んでいく。</p>						

点検評価調書		整理番号	25																		
事業名	地域と学校の連携・協働体制構築事業			担当課係名	生涯学習課	生涯学習推進係															
第2次総合計画 施策体系区分	経営方針	未来を拓く人を育む まちづくり	政策	生涯学習の推進	施策計画	生涯学習の推進															
教育振興 基本計画	政策 (基本方針)	生涯学習の充実	施策 計画	生涯学習の推進																	
事業目的・内容	<p>●目的 地域学校協働活動推進員を配置し地域と学校の連携・協働による地域全体で子どもの成長を支え、地域を創生する活動を推進することで、地域の未来を担う子どもたち（青少年）を育成する。 また、学校・地域の実情に応じた家庭教育に関する支援体制づくりや、放課後等における学習支援活動等の機会を提供することで教育力の向上を図る。</p> <p>●内容 ・地域学校協働活動 地域学校協働活動推進員を全地域に配置（19地域19人）し、地域と学校が連携・協働して地域全体で子どもの成長を支え、地域創生する活動を支援する。 ・放課後子ども教室 地域コーディネーターが中心となり地域住民と学校が連携し、放課後等の子どもたちの居場所を確保するとともに交流活動や学習機会を提供する。 ・家庭教育支援事業 社会教育指導員や外部講師が就学時健診、PTA研修会等保護者が集まる場所に出向いて家庭教育講座を開催する。</p>																				
取組実績	<p>○地域学校協働活動 ・地域学校協働活動推進員を全地域に配置し地域住民の参画による授業支援などの活動を展開 ・地域学校協働活動パネル展を実施し、地域のほか広く市民に周知・啓発を行った（4回）</p> <p>○放課後子ども教室 ・実施校 2校 有明小学校（つわの花）、御所浦小学校</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>学校名</th> <th>利用者延べ人数</th> <th>開催日数</th> <th>コーディネーター</th> <th>サポーター</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>有明小学校</td> <td>666人</td> <td>105日</td> <td>1人</td> <td>4人</td> </tr> <tr> <td>御所浦小学校</td> <td>573人</td> <td>28日</td> <td>1人</td> <td>9人</td> </tr> </tbody> </table> <p>○家庭教育支援事業 ・各小中学校の就学時健診、PTA行事の際に、家庭教育に関する講座の開催 実施回数 35回 参加者数 629人</p>						学校名	利用者延べ人数	開催日数	コーディネーター	サポーター	有明小学校	666人	105日	1人	4人	御所浦小学校	573人	28日	1人	9人
学校名	利用者延べ人数	開催日数	コーディネーター	サポーター																	
有明小学校	666人	105日	1人	4人																	
御所浦小学校	573人	28日	1人	9人																	
決算額	指標：成果、活動の対象となるもの			評価																	
令和4年度(千円)	指標名	単位	令和4年度	上位の施策 (目標)への 貢献	市関与の 必要性	達成状況															
6,716 (県支出金 3,928) (一般 2,788)	地域学校協働活動推進員 配置数	人	目標値 19 実績値 19																		
	家庭教育講座回数	回	目標値 200 実績値 35	4	4	4															
成果 自己評価	<p>地域学校協働活動推進事業については県のモデル地域指定を受け、パネル展の実施や、市公式YouTubeチャンネルによる周知、他自治体等への講演（事例発表）などを行った。また、地域学校協働活動パネル展を開催し、広く市民へ周知することにより活動の推進につなげることができた。</p> <p>放課後子ども教室については、地域コーディネーターが中心となり交流活動や学習機会を提供することができ、子どもたちの学習支援活動につながっている。</p> <p>家庭教育支援事業については、家庭に関する学習機会の提供（家庭教育講話「親の学び」プログラム）について、保育所(園)、幼稚園及び小中学校の校長会において周知を行った。</p>					総合評価 (方向性)															
課題	<p>家庭教育支援事業については、子どもと共に成長するための家庭教育に関する学びの充実を図るため、家庭教育講座等の学習機会の提供や周知啓発活動を関係機関と連携し取り組む必要がある。</p>					見直して継続															
方向性	<p>地域学校協働活動については、将来を担う子どもたちの育成及び家庭や地域の教育力向上のため地域と学校が相互に連携・協働し、コミュニティスクールと地域学校協働活動の一体的推進を図っていく。また、保護者、地域住民、学校関係者等を対象としたフォーラムを開催し、取組の充実を図る。</p> <p>放課後子ども教室及び家庭教育支援事業については、学習機会の提供や周知・啓発等に継続して取り組み、事業の充実を図っていく。</p>																				